

宮崎公立大学交流センター・凌雲会館施設利用状況

宮崎公立大学交流センターは、地域住民の生涯学習及び外国人留学生との国際交流の拠点を目指して建設されたものです。

交流センター内には、生涯学習や国際交流のための講演会等が開催できる多目的ホール、会議室、和室、交流ラウンジがあり、蔚山大学校や蘇州大学からの短期留学生の受け入れ行事や日本文化体験の場として使われるほか、一般市民向けの語学講座や学外団体による研修会など、学内外者が利用できる施設として広く活用されています。

一方、凌雲会館は、本学が開学10周年を迎えたことを記念し建設され、1階が学生支援センターと学生支援課、2階が地域研究センターになっており、主として学生や課外活動団体、本学の教職員及びそれらが関わる団体などが使用する施設です。

1 令和3(2021)年度施設利用状況

施設名		利用件数	備 考
交流センター	多目的ホール	102	
	会議室	152	
	和室	116	
凌雲会館	会議室AB	10	
	共同研究室	149	
	IT教育支援室	—	随時学生に開放

2 行事等別の施設利用率

施設名		学内行事 *1	講座等 *2	教員関連 *3	学外行事 *4	課外活動 ・ 学生使用
交流センター	多目的ホール	44.2%	—	12.7%	28.4%	14.7%
	会議室	19.7%	—	0.7%	59.9%	19.7%
	和室	19.0%	—	—	—	81.0%
凌雲会館	会議室AB	90.0%	—	10.0%	—	—
	共同研究室	37.6%	54.8%	7.6%	—	—
	IT教育支援室	学生に開放				

*1 学内行事：短期留学生研修、大学訪問等

*2 講座等：各種講座等

*3 教員関連：授業等

*4 学外行事：他団体研修等

※令和3(2021)年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、凌雲会館をオンライン授業の受講会場や就職活動(Web面接)の為にスペースとして学生へ開放した。

令和3(2021)年度 地域貢献部会 開催実績

	開催日時	開催場所	主 な 議 題 等
第1回	令和3年4月13日(火) 10:00～11:00	凌雲会館 共同研究室	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度計画について ・令和3年度自主講座開設許可申請について ・令和3年度後期開放授業について
第2回	令和3年5月25日(火) 10:30～12:00	オンライン 会議	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度(寄附)講座の申入れについて ・令和4年度寄附講座の申入れについて ・令和3年度 定期公開講座について ・地域貢献に係る事業の学外ホームページの本学サーバへの移行について ・各種講座(定期公開講座・自主講座等)の学内(教職員)向け案内について
第3回	令和3年6月22日(火)	メール 会議	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度 定期公開講座について 【継続】
第4回	令和3年7月27日(火) 10:30～11:45	オンライン 会議	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度語学講座(後期)について
第5回	令和3年9月28日(火) 10:30～12:00	オンライン 会議	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度計画に係る進捗状況の入力(案)作成について
第6回	令和3年10月26日(火) 10:30～12:00	オンライン 会議	<ul style="list-style-type: none"> ・リカレント教育プログラム講習「ホテル接客 英語講座」受講アンケートの項目について

	開催日時	開催場所	主 な 議 題 等
第7回	令和3年11月30日(火) 10:30~12:00	オンライン 会議	<ul style="list-style-type: none"> ・【継続】リカレント教育プログラム講習「ホテル接客英語講座」受講アンケートの項目について ・令和4年度定期公開講座について ・令和4年度開放授業について ・令和3年度自主講座開設許可申請(追加募集分)について ・令和3年度定年退職教員による公開講座(講義)について
第8回	令和3年12月21日(火) 10:30~11:00	オンライン 会議	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度自主講座開設許可申請(追加募集分)について
第9回	令和4年1月25日(火) 10:30~12:00	オンライン 会議	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度自主講座開設許可申請(講座内容変更分)について ・令和4年度自主講座について ・令和3年度計画業務実績(案)および令和4年度計画(案)の入力について
第10回	令和4年2月22日(火) 10:30~11:25	オンライン 会議	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度寄附講座(街市)について ・令和4年度語学講座について
第11回	令和4年3月22日(火) 10:30~11:00	オンライン 会議	<ul style="list-style-type: none"> ・報告事項:令和4年年度寄付講座(こゆ財団)について等

新聞掲載記事一覧

	掲載日	掲載紙	見出し
1	令和3年5月15日	宮崎日日新聞	「街市」から活性化考えて
2	令和3年9月23日	宮崎日日新聞	交通安全オンライン啓発 高齢者向け 公立大生に委託
3	令和3年12月7日	宮崎日日新聞	危険箇所歩いて確認 西池小5年生
4	令和4年1月22日	宮崎日日新聞	宮崎公立大 辻利則教授に聞く 早めの自主避難重要

令和3年(2021年) 5月15日(土)

宮崎日日新聞社提供

「街市」から活性化考えて

宮崎市中心市街地のにぎわい創出を図る「街市」の実行委員会(大古殿宗大委員長)は11日、同市の宮崎公立大で特別講座を開いた。学生のまちづくりへの関心を高め、人材育成にもつなげようと企画。1～3年生約30人が11月まで全9回の講座を通じ、活性化について考える。

第1回は同大学からリモートで実施し、丸山智生副実行委員長が毎月第



街市実行委員会が行った宮崎公立大生への特別講座

4土曜日に開く「街市」について「一番街と若草通りに多くの出店が並ぶ。今年4月で11周年を迎えた」と紹介。宮崎の食で街を元気にするなどの目的も説明しながら、「いろんな店舗や事業者と協力し、活性化を点から線、線から面へ広げたい」と語った。

学生たちは「活性化につながる取り組みを考えたい」「お世話になった宮崎に恩返ししたい」と意欲は十分。1年の永友はるかさん(18)は「まちづくりへの興味がさらに湧いた。多くを学び、コロナで大変な宮崎を少しでも元気にしたい」と話していた。

今後の講座は市街地の現状、まちづくりなどに関する講話を開くほか、学生は実際に「街市」にも参加し、出店やイベント企画にも挑戦する。

(赤塚盟)

実行委、公立大生へ講座

令和3年(2021年) 9月23日(木)

宮崎日日新聞社提供



交通安全オンライン啓発

高齢者向け公立大生に委嘱 県警

新型コロナウイルス禍で、データの共有なども進める。交通安全教室が開催しにくい状況が続いていることを受け、県警は22日、高齢者向けのオンライン教室を開いている宮崎市の宮崎公立大のボランティアグループ「ア」で、ITを活用した高齢者の健康増進や見守りシステムを研究。県警の依頼を受け、今年6月から同市内の高齢者サロンでリモートによる交通安全教室を開催。これまで4回実施し、延べ約40人が参加した。

県警によると、昨年度の交通安全教室の開催は2452回(前年同期比33.69%減)で、前年の半分以下に減少。県内では高齢者が絡む事故が増加傾向にあるため、県警はオンラインでの開催を模索していた。

県警本部であった委嘱式には学生ら4人が参加。県警交通部の最上川周一(兼)官兼企画課長が「十分な活動ができない中で学生たちの活動を知った。今後、活動を広げてほしい」、4年の松元拓海さん(22)は「高齢者の事故が減ることを願って頑張りたい」と話していた。

(川越裕天)

は初。継続的な活動を目指し、高齢者の事故に関する

危険箇所歩いて確認

西池小
5年生

■ 地域防災 ■

宮崎市・西池小(山口昇校長、907人)の5年生は11月30日、地域の危険箇所や災害時の避難施設を調べる「ストリートウォッチング」を行った。児童たちはタブレット端末で写真を撮影したりメモを取ったりしながら、宮崎公立大ネットワーク研究室(辻利則教授)が開発したウェアラブルを活用して防災マ



ップを作成した。2クラス約80人が参加し、同研究室の学生と中央

西まちづくり推進委員会

(徳光秀夫委員長)のメン

バー約30人が引率。8班に

分かれて県総合文化公園を

出発し、同大学や北消防署

周辺などを約1時間半歩い

て調査した。

児童たちは端末を使い、

歩道の舗装が割れている箇

所や指定避難所などを撮

影。「つまづかないように

注意」「災害時に集合する

場所」といった音声メモを

添えて、アプリの地図上に

次々に記録していった。

田邊圭都君(11)は「いろ

いろな場所に避難施設があ

り勉強になった。家族にも

教えてあげたい」と話して

いた。残りの2クラスも同

様の調査を行った。

(野崎亮)



16日未明に本県沿岸部に発令された津波注意報に関し、自治体の避難指示発令の判断や避難の在り方について宮崎公立大の辻利則教授(災害情報)に聞いた。

(岩切康一朗)

自治体は災害の恐れがある場合、躊躇なく避難情報を出すことが求められる。ただ、今回は海外的海底火山噴火による津波という経験したことのないケース。このため、正確な予測が難しく、自治体の判断が分かれたのではないか。ただ、発令の有無とは関係なく、津波注意報発表を

宮崎公立大 辻利則教授に聞く

早めの自主避難重要

防災行政無線で周知するなど、「気付かせる努力」は必要だ。

車で高台に自主避難する人も相次いだ。避難は徒歩が基本。車の渋滞が発生すると、身動きが取れなくなり津波に襲われる可能性があるためだ。南海トラフ巨大地震発生が懸念される中で、こうした注意点を認識してほしい。

気象庁や行政も判断を間違えることがある。だからこそ、行政任せにせず自分の地域の災害リスクを事前に把握し、早めの自主避難が重要。自分の命は自分で守る意識を徹底したい。